

ひめじょ通信



発行：第15号（年1回発行）
 発行日：2020. 8. 8
 広報委員：今村朋子（編集長）・中尾慶子
 瀧本千紗・山下玲子
 発行部数：300部

発行元：一般社団法人 愛媛助産師会
 （一社）愛媛助産師会 会長 井伊貴子
 事務局：愛媛県松山市中一万2-1
 愛媛県助産師会立まつま助産院内
 E mail：ehime@himejyo.jp

『第76回 日本助産師学会 in 愛媛』

Web開催として盛況におこなわれました！

2020年5月30日～6月10日 インターネット配信

●日本助産師学会を開催して 井伊 貴子（大会長・愛媛助産師会 会長）



愛媛県松山市で開催される予定でした2020年度の公益社団法人日本助産師会 第93回通常総会並びに第76回日本助産師学会は、3月末に島田会長より、「このコロナ禍を考慮し、5月総会・学会の愛媛県開催を中止する」という連絡をいただき、2020年度公益社団法人日本助産師会第93回通常総会は電子式開催、第76回日本助産師学会は愛媛：インターネット学会として開催することが決定され、開催方法を変更しての準備となりました。

今回のメインテーマは「**助産の原点～愛顔つなぐ助産師～**」とし、

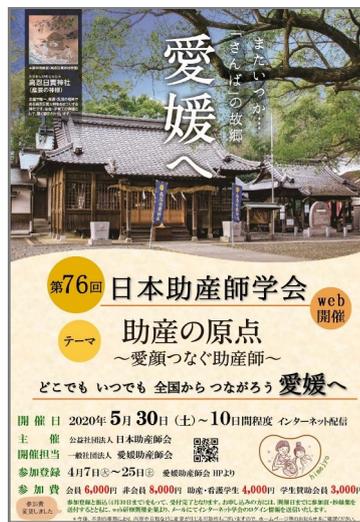
プログラムを企画しておりました。初めてのWeb開催となり、戸惑いもありましたが、日本助産師会やWeb学会の委託企業であるビジョンブリッジに相談を重ねながら、「**どこでも いつでも 全国から つながろう 愛媛へ**」という新たなキャッチフレーズのもと、自宅にいながら愛媛とつながれる機会が持てるように、学会プログラムの内容充実だけでなく、愛媛ならではの『バーチャルなおもてなし』等も企画いたしました。

学会参加費についても検討を重ね、かなりお得な金額での参加ができ、このコロナ禍でありながら、**当初の予想をはるかに上回る1516名!**（内訳は会員783名 非会員601名 学生賛助会員17名 助産・看護学生115名）とたくさんの方々にお申し込みをいただきました。大きなトラブルもなく、5月30日（土）10：00～6月10日（水）正午までの会期を終えることができました。実行委員一同、皆様に感謝申し上げます。

このコロナ禍において今後はこのような形式の学会や研修会等が増えてくるかもしれませんね。

目次

2020年度	
* 日本助産師学会 in 愛媛 WEB開催特集!	1~5
2019年度	
* 2019 春季研修	6
* 産後ケア特集	7~10
* 2019研修・イベント報告	10~11
* ひめじょのお知らせ	12



●WEB学会となり、作り直したチラシ



●学会実行委員長の任を終えて 崎山 貴代（愛媛大学 学会実行委員長）

このお仕事のお話をいただいた時はコロナウイルスの姿は微塵もなく、現地開催100%の気持ちでおりました。愛媛が高忍日賣神社を祀る神社を有することや俳句や鍼灸などの地域特性をもつことより、原点回帰を前面に出したテーマ設定と特徴を活かしたプログラム内容とし、委員皆で交渉と準備を進めました。

一方で年明けより不穏なニュースが流れ始めましたが、手を止めてしまうと動けなくなりそうで回遊魚のような気持ちで黙々と調整を進めていました。しかし、無情にも（予定通り？）3月末には現地開催中止とオンライン学会への変更が決まりました。それぞれの仕事も試行錯誤の中でオンライン

学会という未知の経験が始まり、委員は皆大変だったと思います。講演の変更やポスターセッションの調整など決断を迫られることが多くありましたが、最終的にはより豊富なプログラムとすることができました。

また、この方法によりどのプログラムも聴講できるようになり、育児や介護などの理由で参加できない人たちに参加の機会を与えられたという意味においても、大きな成果を得ることができました。実行委員として仕事をさせていただき、委員それぞれの人となりも知れ、困難の中でも共に目標を達成できたこと、失敗も含め貴重な経験をさせていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。

オープニング
レクチャー

「産婆の神様の地から～現代まで受け継がれる助産～」

● 神代から現代まで受け継がれる助産 後藤 正宜 氏 (高忍日賣神社 宮司)

「助産師の神様が祀られる神社が愛媛にあるなんて、そこで助産師になったなんて、なんかすごい！」と感じているのは私だけではないはずです。神話はとても興味深く、宮司さんの「日頃より努めて自然の中に身を置いて～」という言葉がありました。私も自然の中に身を置き、ゆったりとした気持ちをもって支援していきたいと思

いました。今は地域で開業し、お産から離れていますが、当時は慌ただしい中にも産婦さんに手を当てながら祈るような気持ちでいたことを思い出しました。助産師の手で新しい命を迎え、子育てに寄り添っていくことを未来にも受け継がれてほしいと思いました。

(助産院emi 田中恵美子：会計担当)



●宮司さんの講演は、本殿で特別に撮影させていただきました

● 安産福運大祭と助産師の歴史 岡本 喜代子 氏 (村松志保子助産師顕彰会 副会長)

毎年3月8日(さんばの日)に高忍日賣神社にて安産福運大祭が挙行され、私も数年前から参加するようになりました。その時にはじめて村松志保子助産師顕彰会のことを知り、村松志保子先生ってどんな方なのだろうと思いました。



●顕彰会が建立した境内の
母子と助産師の碑

今回改めて岡本先生の講演からその偉業を知り、まだ女性の地位が低い明治時代に助産師(産婆)の仕事を確認させていったバイタリティーを感じました。東洋医の父に医術を学び、その上西洋医学も身に付け、妹を産褥熱で亡くした事から医師ではなく産婆として活動。女学校「淑女館」を設立し、一般教養で産婆学を教え、後に安生堂産婆学校を設立し産婆教育及び自立的博愛活動を行ったという

功績は現代に生きる私たちに勇気を与えて下さいました。

私たちが胸を張って「助産師です」と言えるのは村松志保子先生はじめ、その志を引き継いで活動されている顕彰会の皆さまのような先輩助産師のお陰だと言えるのではないのでしょうか。

私たちは日本人として四季のある自然とともに生きてきました。自然のリズムを肌で感じ、先祖の伝統を受け継ぎそれを次世代に伝えていく、命をつなぐ。ここに助産師が関わること、助産師が生き残っていく知恵をみんなで考えてほしいと言った岡本先生からのメッセージがここに残りました。仕事をしていく上で後輩に伝えていける力を残していくこと、命を伝えていくこと、この言葉を胸に頑張っていきたいと思いました。(はらだ助産院 原田恵美：受付担当)

📖P12の顕彰会表彰記事もご覧ください

★顕彰会の機関誌でもWEB学会の感想記事が掲載されています。ひめじょうHPにリンクがあります。

● 先輩から受け継ぐ助産師会立まつやま助産院 ～昭和から平成・令和～ 武智 恵子 氏 (まつやま助産院 院長)

まつやま助産院で20年近く従事されている武智恵子院長より、助産院の1世紀近く上る歴史を紐解き、歩みをご紹介いただきました。なかでも、一度は助産院閉院を余儀なくされた歴史を知り、助産師の方々の熱い思いと使命感を窺うことができました。また、そのような昭和の歩みを平成で受け継がれた武智先生が、令和のこれからは、何をどのように残されていきたいか、ここにも武智先生の熱い思いと妥協しないご努力が窺えました。私自身も、まつやま助産院で出産し、母子や家族がその人らしくお産をし、助産師が助産師らしく活躍できる場であることを実感しておりました。そのため、今回こうして、まつやま助産院の歴史や思いが全国に向けて発信されたことがとても嬉しく、母親として、助産師として大変誇りに思いました。



●旧松山助産院(左)と
新まつやま助産院(右)の写真



昭和から平成・令和へ
切れ目なく受け継がれた

この思いや技術の偉大さを実感しながら、後世へ繋いでいけるよう、助産師の一人として考え続けていきたいと思えます。(医療技術大学 瀧本千紗：HP担当)

特別
講演

「令和の助産師モデル」 山本 詩子 氏 (山本助産院院長 前日本助産師会会長)

ちょうど2年前の2018年5月18日、山本先生にはじめてお会いした記念日です。日本助産師会の会長が愛媛まで研修会の講師として来て下さる。前日の夕方、理事と先生との食事会には、どんなに緊張する食事会になるのだろうかと不安だらけで参加したのですが、とても楽しく仲良しの友人と語り合っているような心地よい時間を過ごせたのを覚えています。翌日の研修会もあっという間に時間が過ぎ、助産院で働くことの幸せを教えてくださいました。

今回の学会で大ファンの山本先生の講演があるのを本当に楽しみにしていました。もちろん一番最初に聴きました。「守破離」の考えを、令和の助産師モデルに取り入れて考えてみようと呼びかけられ、助産師の仕事は一生学び続けるものだし、後輩にも引き継いでいくものなのだ改めて気づきました。山本先生のように「どのような人や場面でも受け入れる技」「多様性を受け入れ、優しく強く寄り添う能力・技」を身に付けたいと思いました。

(まつやま助産院 小林麻須美：企業担当)

特別
講演

「俳句でつながる」 夏井いつき氏 (夏井&カンパニー 俳人)

夏井いつきさんは有名な俳人であり、参加者の中には夏井さんの講演が参加の決め手だとする方もいらっしゃったほどです。夏井さんには『介護で外出ができず、季語に触れることが難しい私に俳句をつくる資格はないのでしょうか』と問われたエピソードと、その時の思いを交えてお話しいただきました。季語の現場に行き季語を感じる事が大切だとする自分の価値観は他人にとって最善ではないことを示され、

多様な生活や価値観の存在について理解しておく大切さを改めて感じました。また、俳句は季語を用いてそれぞれの思いや状況を伝えるものですが、私たちの仕事においても相手の言葉から思いや背景を汲みとることが求められます。言葉は刃にも癒しにもなりますが、自分が発する言葉の影響を常に慮り、謙虚な態度で言葉を用いることが大切であると改めて感じました。

直接お会いできなかったことは残念



●たくさん本の前の講演が印象的でした！

でしたが、お話からそのお人柄を垣間見ることができました。
(愛媛大学 崎山貴代：学会実行委員長)

特別
講演

「絆を育む:オキシトシン活性化研究」 堀内成子氏 (聖路加国際大学 学長)

堀内先生の熱意あふれる講演は、あっという間の60分でした！Webであることを全く感じさせない、明るく心地よい声やイキイキとした表情から先生の「愛」がたくさん伝わりました。

先生は、聖路加産科クリニックでの経験を通して「正期産に導くためにはどうすればいいか」と疑問を抱いたことから、オキシトシンを指標に用いた助産ケアの効果を研究されました。陣痛発来を促す助産ケアとして、乳頭刺激やアロマテラピーによる唾液オキシトシン値の変化と子宮収縮増加の研究

を例に具体的な方法をお話しくさされ、誰でもすぐに実践に取り入れられる内容だと思いました。また、妊娠後期から産後のオキシトシン値の変化を分娩方法の違いからみた研究では、産痛の予測と現実とのギャップや疲労感についても調査されており、その意外な結果には驚きました。

そして、先生が講演の最後に伝えてくださった「心地よさを呼び戻す体験」が、いかに重要であるかということ。赤ちゃんの肌にスリスリしたり、クンクンにおいをかいだりといった、自分

の五感を使った「だーいすき」の感覚の大切さを話して下さったことが心に響きました。



自分のホルモンで産み育てる女性の体の自然の摂理の見事さや、それを支援する助産師の技を研究として示して下さったこの講演は、まさに今回のテーマ「助産の原点」で最も伝えられたことだと感じました。

(医療技術大学 今村朋子：総会実行委員長)

特別
講座

「笑顔でつなごう 子どもたちの未来 ～期待される成育基本法と助産師の役割～」

自見 はなこ氏 (参議院議員, 小児科医)

成育基本法の制定にご尽力くださり、私たち助産師の活動を支援してくださっている参議院議員であり、小児科医であられます自見はなこ先生の特別講座「笑顔でつなごう 子どもたちの未来～期待される成育基本法と助産師の役割～」においては、このコロナ禍に実施された妊産婦等への電話相談事業や厚労省の動きについてのタイムリーなお話や成育過程にあるものやその家族、妊産婦へ必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策をわかりやすくお示

しいいただきました。まだまだ、母子保健事業(産後ケア事業)には、地域格差がありますが、「産後ケア事業」が法制化されるなかで、助産師が担う役割はますます大きくなっていくことを実感いたしました。私たち助産師が積極的に地域母子支援に向かうだけでなく、産後ケアと地域包括ケアシステムを統合するために行政と助産所や医療施設等との連携も大切になってくると感じました。

(松山赤十字病院 井伊貴子：大会長)

ワー
ク
ショッ
プ

「お接待の地で学ぶ 妊産婦ケアに活かせる東洋医学」 辻内敬子氏 (女性鍼灸師フォーラム代表)

10年以上前になりますが、辻内先生に母乳育児シンポジウムでお会いした時に、総合病院で漢方内科(当時は東洋医学研究所でした)があるのは、全国的にも珍しく、とても羨ましいと褒めていただいたことを覚えています。当時は混合診療という制度もなく、かなりの妊産婦さんを、東洋医学に紹介し、治療や煎じ薬の処方をして頂いていました。

今回、愛媛での現地開催にあたり、講演を快くお引き受け頂き、愛媛の鍼灸師さんと3回の周産期ケア基礎講座のプロジェクトまで企画され万全の準備をされていました。しかし、新型コロナの影響で、残念ながら実現できませんでした。Web開催への変更となり、抄録や講演内容など、大変なお苦勞を先生におかけしてしまいました。

予定のワークショップであれば、辻内先生の熱い楽しい

パワーを直接感じていただけたところですが、Web学会に参加された皆様からは、「詳しい説明で、ツボの活用法がわかった。」「効果を実感している。」「自己免疫力を高め自然治癒力につなげるなど、現代人に必要だと感じている。」「日常の支援に活用できるお話で良かった。」など、前向きな感想をたくさん頂きました。Web開催となったことで、人数制限がなくなり、多くの助産師に聴講していただき、それも良かったのかなと思っています。今回の学会をきっかけに、いつかどこかで、辻内敬子先生にお会いすることがあれば、皆様にも、是非愛媛のお接待をして頂けたら幸いです。

(県立中央病院 黒田法子：プログラム担当)



特別講座

「産後ケアガイドの活用」 島田 真理恵 氏 (日本助産師会 会長)



2019年、母子保健法一部改正に伴う産後ケア法案が公布されたことに加え、2020年度末までに全市町村に子育て世代包括支援センターが設置予定であることから、今後の産後ケアに大きな期待を持っている助産師は多くいると思われます。島田先生の講演も熱い思いが伝わってくるお話でした。先生のお話にもありましたように、産後ケアは市町村事業であるため100%助産師が思うような事業内容とはいきませんが、どこに住んでい

ても同様のサービスを提供できることは重要です。そのような中、「産後ケアガイド」は助産師誰もが良質なケアを提供できる、質の担保ができるためには必読すべき書であると思います。

密を控えなければならない世の中ですが、今を産後ケアに関する転換期ととらえ、行政との心の密は積極的に取り、利用者にとってより良いものにできればいいと思います。P7もご覧ください (医療技術大学 伊藤美香：おもてなし企画担当)

●コロナで中止になった愛媛の春季研修がWeb学会の追加講座として実現しました。島田会長に心から感謝!

●Web ポスターセッション & 抄録編集 (しまなみ助産院 前山優子：プログラム・抄録編集担当)

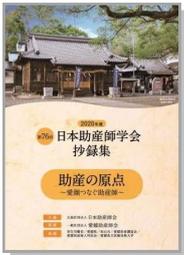
ポスターセッションでは、一般演題は10題、活動報告は26題の申し込みがありました。抄録集の編集作業を行う私自身にとって、申し込みいただいた抄録の内容はとても興味深いものであり、ポスターセッションにおいて具体的に伺いたいという思いになっていきました。今回は現地開催

ファイルと向き合う日々でした。皆様が、お忙しい中ギリギリまで作成してくださったものを、間違えのないように掲載しなくてはならないと作業していたことが思い出されます。校了時には、ようやくここまでたどり着けたという気持ちでしたが、その後も印刷・製本された抄録集を見るまでは安心できないという思いと、もうこれ以上できることはないという思いで過ごしていました。抄録集を手にとった時には、完成したと喜びを再び感じました。企業広告も含め抄録集の作成にかかわってくださった多くの方々のお陰だと感謝申し上げます。

が中止となり、抄録掲載による発表とともに、一部希望者の方にはご協力頂き、Web上でのポスター掲載による発表を行いました。発表者や参加者の方々とは直接ディスカッションすることはかかないませんでした。今後お話を伺える機会を楽しみにしています。

抄録集の作成については、学会プログラムを中心に、頂いた原稿、抄録などの文書

実行委員としてプログラムを検討し始めたのは、ずいぶん前のような気もしますが、終わってみればあっという間でした。最後まで実行委員としての役割を担い(個人的には途中で転勤にならずホッとしました)、本学会に参加出



日本助産師学会 web おもてなし企画も開催!



●ひめじょオールキャストでおもてなし● 総会実行委員長として開催に向けて、広報や企業対応、会場やスタッフのマニュアル作りなど運営全般を担当していました。そのような中で現地開催がなくなり、これまで計画していた企画が全部なくなってしまうのはあまりに寂しく、「やりたかったことは、全部やろう!」「楽しい学会にしよう!」と、様々な企画を全てWEB上でおこなう形で計画しました。学会をWEBに変更して運営するだけでも大変なのに、たくさんのおもてなし

企画の実現に向けて、最後まで精いっぱい仕事をやり遂げてくださった実行委員メンバーの皆さまに感謝いたします。また、コロナで大変な中、ウェルカムボードの写真撮影に参加してくれた多くの医療スタッフの方々、垂れ幕を運んでくれた方々、そして俳句でつながってくれた全国の方々も本当にありがとうございました。

(医療技術大学 今村朋子：総会実行委員長)

●バーチャルウェルカムボード：垂れ幕がつかない県内の産科医療機関! (四国中央病院 中尾慶子：書担当)



●書に込めた「感謝」● 2020年に入り、愛媛助産師学会の日程が近づく中、学会の準備として垂れ幕の文字を書道で、という依頼がありました。しばらく筆を持って書いてなかったのですが、愛媛のテーマカラーのオレンジの布を買って、気持ちを集中させようと、仕事の合間に書道の練習をおこないました。書道の先生にも、文字の配置や筆についてのアドバイスをいただき、何枚か文字を紙に書いてみました。やはり、晴れ晴れとした気持ち、書に向かう精神統一はとても私にとって大切な時間です。いよいよ布に文字を書くと、思った以上に墨が布ににじんでしまったり、薄いかかすれて文字が読めないものとなり失敗。本当は『愛顔つなぐ助産師』というテーマも書きたかったのですが、断念してしまいました。

白の正方形の垂れ幕は、以前東予さんばフェスタ開催時に作成したものです。手の部分は、東予の助産師会メンバーの手にトールペイントの絵具をつけて、一人一人の手形を入れたものです。助産師の手は、温かくお母さん・赤ちゃんを包み込むイメージで言葉を考えて書きました。



●実行委員メンバーは県文で撮影!

今回このような形で動画配信、写真撮影時にも活用していただき、全国の方に、書の魅力や助産師の思いを伝えられてとても感謝しています。今後も、自分らしく書を通して、沢山のメッセージを届けたいと思います。

●バーチャル愛媛の物産展 & 俳句で **ほ・ん・と・に** つなごう

●南予の県産品をPR！● 愛媛開催からWeb学会になり、出店予定だった各物産店舗の紹介を「バーチャル愛媛の物産展」という形で開催することになりました。ホームページでの愛媛の物産展紹介は、レイアウトが工夫され、興味が沸くような内容になっていたと思います。俳句の賞品とも連携していたので、商品を印象づけられたのではないのでしょうか！その中で地元南予の特産品を3品、紹介していただきました。ただ、急なWeb販売は難しく、実現できたのは、現地開催の蛇口ミカンジュースで試飲してもらう予

定だった植村農園の蜜柑ジュースだけでした。Webではその味をお届けできず、たくさんは売れませんでした。買っていただいた人からは、「他のジュースとは違う！本当においしい」という感想をいただきました。

今回現地開催はできませんでしたが、愛媛の物産を知っていただくことができ、今後に繋げることになったと感じます。Web学会の参加者の感想では、「本当に愛媛に来ているみたいなきがした」という声があり、嬉しく思いました。(いわもと婦人科クリニック 清家育子：物産担当)

●ほんとはつながる俳句企画● まさかのWeb開催となり、「少しでも皆さんとつながる企画を！」と、新たに俳句の企画を医技大チームと物産チームが共同で立ち上げ、賞品選定から優秀句の審査などをWeb会議でおこないました。この企画には予想を超えるたくさんのご投稿をいただきうれしく拝見しました。母子と家族に寄り添う助産師の日常が、助産師ならではの視点で描かれた句ばかりでした。投稿・投票を通して皆様の思いをつなぐお手伝いができて

いれば幸いです。また今回、本学会のアナウンスをした頃は母の日の時期でもあり、コロナにより休校も続いていた最中でしたので、ぜひ親子で俳句を楽しんでいただきたいという思いから、子ども部門を設けました。子どもたちが助産師である母や出産・子育てをどのように捉えているのかが垣間見える、温かい俳句が集まりました。

(医療技術大学 瀧本千紗：俳句・動画編集担当)

～特選～

- あたたかい 両手のひらに 春の生命 (長崎県：はなお)
- 産声や 宇宙は震え 蛙鳴く (山口県：中本朋子)
- 新緑に うぶ声高く 母の笑み (栃木県：さとうさぎ)
- 三密の ツバメの親子 うらやまし (静岡県：ときぞう)



●特選の南予の賞品は地元企業様から協賛品としてご提供いただきました。

～優秀賞～

- 生まれるよ 心はひとつ 春一番 (神奈川県：びよんこ)
- 夏の夜の 赤子の夜更かし 母つらし (三重県：ゆっかい)
- 入学式 母の背追いかけ スタートライン【母娘句：娘】 (愛媛県：あさひ)
- わが娘 入学始めは オンライン【母娘句：母】 (愛媛県：いいわよ)
- 母の日も 電話一本 帰れません (愛媛県：はな)
- いつ起きる？ ママはいつでも お昼寝中 (東京都：かつ一ん)
- おとうとの ～そのおきるよ お月さま (愛媛県：りんりん)



●物産リーダー吉田さんセレクトの逸品！

[P12の懇親会記事もご覧ください](#)

*それぞれ春～秋の季節順に掲載。●は大人部門 ●は子ども部門。さすが愛媛っ子が強い子ども部門！

●バーチャル高忍日賣神社参拝 (医療技術大学助産チーム)



●全国の方々をお迎える予定だった高忍日賣神社。今回、参拝できなかった方々に代わり、実行委員が参拝の様子を動画で紹介しました。

●次年度の沖縄開催に向けて盛会祈願の絵馬を奉納！



●5月の神社は鯉のぼりが風に泳ぎ、最高の参拝日和でした！ ●高忍日賣神社のInstagramも超オススメです。

●企業広告全般を担当して (さなだ助産院 眞田千恵子：企業・物産・懇親会担当)

今回最初に感じたことは、そう簡単に協賛金は頂けないこと。四国という地の不利、書類送付のご案内だけでは、ほとんど捨てられてしまうこと…を学習し、何度も企業にトライし本部にもお願いしました。はじめは目標額に程遠く、そこで県内企業や医療機関の方々の協賛に邁進しました。皆様のご協力のおかげで目標額を上回った時のうれしかったことは、忘れられません。

その後の現地開催の中止、web学会への方向転換。これによる協賛企業の辞退…、ここで引き下がらない実行委員

長のアイデアでバーチャル企業展示を募りました。このことだけではありませんが、“すごい”と本部の事務局長が称賛してくれました。コロナの関係で企業が在宅ワークになり、企業との連絡が思うようにならず、困った事態に何度も遭遇しました。メール業務担当の篠澤さんには、夜遅くまで作業してもらったり、企業チームの皆様にも多くを助けて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。この事から何度も確認は必要、そして確実ということの大切さ、私達はどんな時も誠実で確実な対応をすることを学びました。

令和元年度 日本助産師会通常総会・学会 in 栃木

2019.5.23-25 場所：栃木県小山市 小山文化センター



2020年の愛媛での開催に向けて、実行委員や理事が栃木大会に出席しました。みきゃんと一緒に次年度のPRをしたり、会旗引継ぎで愛媛助産師会の井伊会長が旗を受け取りました。日光東照宮では愛媛大会の盛会祈願をしてきました！（今村）

春季 研修

「第1部：子宮内環境と生活習慣病発症の関連」

2019.5.19 杉山隆先生（愛媛大学大学院医学系研究科 産婦人科学講座 教授）

助産師外来で栄養指導をしていると、何をどこまで伝えていくか、悩むことがあります。杉山先生のお話では、妊娠中の母体の栄養状態が、児の将来の生活習慣病発症に影響を及ぼし、特に低出生体重児やHFD児は、肥満や糖尿病発症のリスクが高いそうです。体重増加に対する指導では、つい食事内容の制限について話すことが多いのですが、エネルギー量だけでなく、脂質過多でないか確認すること、タンパク質をしっかりとることや、バランスの良い食事について話し、適切な体重増加の目安を伝えることが必要であると感じました。

妊娠前の肥満があると、児の糖尿病発症リスクが高くなるため、妊娠希望の女性に対しても、知識を伝えていく機会があると思います。食育は、次世代の健康にも影響を及ぼすということがよく分かったので、食事に関しての勉強を怠らず、妊婦さんと家族の健康のために指導をしていきたいと感じました。（山下玲子：きら病院）



春季 研修

「第2部：妊娠期・産褥期に遭遇する乳腺疾患について」

2019.5.19 濱田信一先生（公立学校共済組合四国中央病院 健康管理科 部長）

春季研修第2部では、妊娠期・産褥期に遭遇する乳腺疾患について、四国中央病院健康管理科部長の濱田信一先生にご講演いただきました。妊娠関連乳がんは現在増加傾向で、助産師は母乳育児支援を行う際、妊娠関連乳がん等の乳腺疾患を疑う事例に遭遇することがあります。今回の研修では、乳房の解剖学的構造や妊娠・産褥期に遭遇しやすい乳腺疾患を中心に、事例を交えながら分かりやすくお話いただきました。妊娠期は麻酔を用いない穿刺吸引細胞診（FNAC）だけでなく、麻酔を用いた針生検（CNB）も行うことができるそうです。また、乳腺の発達している産褥期においては乳房超音波を用いることが有用で、

その手技やエコーの設定についてもご説明いただきました。「妊娠期・授乳期の乳腺領域は産科Dr.も乳腺外科Dr.も消極的になる空白地帯である」という濱田先生の言葉がとても印象的でした。この空白地帯を埋め、予後不良と言われる授乳期の乳がんを早期発見するためには、私たち助産師が大きな役割を担っています。乳腺疾患に関する専門的な知識と技術の習得と、医師（産科Dr.や乳腺外科Dr.など）との良好な協力体制を築くことが大切であると感じました。

（瀧本千紗：医療技術大学）



東予
研修

「愛媛の産後ケア」

2020.1.25

- ・伊藤美香さん（愛媛県立医療技術大学）
- ・中尾慶子さん（四国中央病院）
- ・植村礼子さん（山内産婦人科）



●伊藤美香さん

産後ケアの法的根拠や、大学で取り組んでいる、県内の子育て支援調査の経過報告をしていただきました。



●中尾慶子さん

総合病院の中で、工夫しながら産後ケアを実践している取り組みを報告していただきました。



●植村礼子さん

クリニックの立場で、宇和島の包括支援センター「すてっぷ」と連携した産後ケアの実践について報告していただきました。



●他施設や行政との情報交換や連携の大切さを実感！

愛媛県内での産後ケア実施状況について、具体的に知ることができました。県内の中予、南予、東予と、分娩数も人口も異なりますが、それぞれの各市町と医療施設が、どのような取り組みをし、サービスを展開しているかをワークショップで知ることができ、参考になりました。同じ地域でも、他施設の取り組みについて知る機会は少ないため、より良い産後ケアのために、他施設の取り組みについて、情報交換を続けていきたいです。また、行政がどのような取り組みをしているか知る機会になり、情報の連携について、より課題が明確になったと感じます。

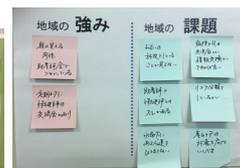
実際、産後ケアを実施されている施設の方のお話を聞いて感じたのは、事業のシステムも施設側の対応も、まだまだ試行錯誤しながら、変化していく可能性があるということ。サービスを利用したくても、料金的な問題やサービス利用に回数の限度があること。継続的な支援が必要な方がいらっしゃる時に、産後ケアの対象期間が終了後も、乳房外来や助産師外来でのフォローが必要なケースもあること。また、経産婦は

上の子を預けないと利用できないこと。手続きの関係上、必要な時にすぐ利用ができないこと…などでした。

施設としても、月齢の大きい子が来た場合に、感染予防対策、転落などの事故防止のため安全対策を考慮する必要があります。分娩などで助産師が積極的に関わることが出来ない場合もあるため、スタッフ間で産後ケアについて意見交換、マニュアルの作成などがあると良いとのことでした。

産後ケアは、お母さんにとって安心感を得られ、リラックスできる場所であると思います。不安な時に寄り添ってくれる人がいると感じられることが、明日の育児への活力になると思います。私個人としては、行政の対象者以外の方でも、サービスがあるならば、利用したいと考えている母子はたくさんいるのではないかと感じています。

産後ケアに関わらず、各施設、地域にいる助産師が連携し、どこにいたとしても、どんな状況でも、常に母子に寄り添っていける関係性を作っていけると良いな、と思います。（広報委員：山下玲子）



各地域で出した「強み」と「弱み」

県内4地域のグループに分かれて「産科施設の母子支援」「市町の母子支援」の両方を検討するワークをおこないました。どこに切れ目があるか？それぞれ情報共有をしながら、母子支援の見える化を行いました。



♡ 読んでみん犬(けん)！？

今こそ知りたい 助産師のための産後ケアガイド

383shop.net

日本助産師会出版HPで買えます

助産師の誰もが産後ケアの必要性を認識しているにも関わらず、様々な理由で思うようなケアができない現状があります。施設によっては、市町からの委託を受けず利用者の自費負担で実施している施設もあるかと思っています。この本は、今後、市町からの産後ケア事業を受託するにあたって、受託側として提示すべき業務基準や標準的ケ

ア内容の作成に参考となるものです。また、産後ケアに関わるスタッフ間の意志統一にも役立ちます。ぜひ参考にされて、各市町の地域特性に応じた産後ケア事業の向上に役立てていただきたいと思います。

60ページほどで字もそこそこ大きいですし、表にまとまっているページも多く読みやすいですよ～（伊藤美香）



編集：日本助産師会 産後ケアガイドライン特別委員会
発行：2019年3月

お産場
探訪

助産師が活躍する
子育て世代包括支援センター！

マザーズステーション「すてっぴ」：宇和島市



昨年から南予の助産師から幾度となく聞こえてくる「すてっぴ」という言葉。今回のお産場探訪では、お産の前後を妊娠期から子育て期まで切れ目なく支援する地域の拠点、宇和島市のマザーズステーション「すてっぴ」をご紹介します！1月に東予で開催された産後ケア研修の際に、遠く宇和島からご参加いただいた、保健師の岡本さんと助産師の清家さん。県内でもいち早く子育て支援センターを立ち上げ、医療機関と連携しながら活動されている方々とあって、研修の際は、たくさんの質問をさせていただきましたが、さらに今回、追加取材にご協力いただきました。開設から1年、医療機関と顔の見える関係の中で、母子への支援を充実させてきた宇和島市の様子をお伝えいたします。
*取材：編集長 今村朋子 *写真撮影協力：植村礼子さん

取材させていただいた方

●宇和島市 保険健康課 母子保健係
課長補佐・保健師 岡本 直子 さん

すてっぴの立ち上げに尽力された岡本さん。すてっぴへの助産師の起用も、岡本さんの強い思いがあったからこそ実現に至りました。今回は課長補佐として、開設後の母子保健事業の実際についてお答えいただきました。

●「すてっぴ」助産師 清家 晶代 さん

(旧)町立吉田病院 産婦人科病棟で助産師として20年近くキャリアを積まれた後、産科閉鎖後は、宇和島市役所の福祉課で10年以上勤務されていました。

このたび宇和島市に子育て世代包括支援センターが立ち上がることとなり、同じ市役所内に勤務していた清家さんに声がかかったとのこと。

●マザーズステーション「すてっぴ」を支える皆さま



●すてっぴ助産師 清家晶代さん ●すてっぴ保健師 宮道志乃さん ●保険健康課母子保健係 課長補佐 岡本直子さん

◆「すてっぴ」が支える宇和島市の産後ケア

東予の研修でもとりあげた「産後ケア」について、課長補佐の岡本さんに詳しくお答えいただきました。

*産後ケアを受けられる対象者

「家族から十分な家事及び育児などの援助が受けられない褥婦、産後に心身の不調又は育児不安がある者」
※母子保健事業費国庫補助金を受けて運営しているため、国の運営要綱に準じて市の運営要綱を制定している。

*1年間の産後ケア利用日数と次年度予算

2019年4月～2020年3月末 2020年度予算
・宿泊 7人（利用日数26日）→（宿泊 予算 70日）
・日帰り5人（利用日数16日）→（日帰り 予算 40日）

*産後ケアを利用してもらう取り組み

- ・母子健康手帳交付時に全員に説明
→支援が必要な方は、支援の中で再度説明
- ・委託医療機関の助産師さんから紹介して頂く

*実際の産後ケア利用のきっかけ

- ①ご本人からの利用希望 （1名）
- ②すてっぴ職員のすすめ （4名）
- ③医療機関助産師のすすめ （2名）
- ④その他：地区担当保健師の紹介（1名）
赤ちゃん訪問時のパソレットを夫が見て（1名）など

●産後ケア事業
・助産師による専門的ケア

対象：おおむね生後4か月未満の赤ちゃんとお母さんで、「お母さんの体調や育児に不安がある方」、「家庭などから産後の援助が受けられない方」など

利用種別：宿泊型・日帰り型
利用日数：7日まで
場 所：委託医療機関（産科）
費 用：世帯の課税状況により、自己負担金が必要
※注意事項：医療機関の空きベッドを利用しての実施のため、ご希望に添えない場合があります。

「産後ケア」のお問い合わせは
マザーズステーション「すてっぴ」

*産後ケアについての今後の課題と感じていること

- ・利用対象の拡大（産後ケア未利用部分を抜粋）
- ・里帰りの人への対策は必要とは思いますが、県内集合契約などの体制が必要だと思います。
- ・産後ケア実施施設との意見交換
（現在も実施していますが、今後も継続が必要）

●開始から1年でどんどん実績を伸ばしている宇和島市の産後ケア。次年度はさらに利用が増えそうですね！

●すてっぷの概要

- * 開設 2019年4月
- * 場所 宇和島市役所内
- * 常勤職員 助産師1名
保健師1名

.....すてっぷの理念.....
子供の成長と共にワン「すてっぷ」
ずつ上がっていくよう
母と家族「マザーズ」に寄り添った
切れ目ない支援を行います！



●すてっぷの窓口

●「おっぱい相談」事業について

助産師の清家さんが直接担当し、原則いつでも対応可能な形をとられています。(不在時は、他のスタッフが対応し、折り返し連絡を受けます) 相談時は、授乳の様子を見て、状況により乳頭乳房の観察、授乳方法・児の抱き方の支援を行なっているとのこと。電話の問い合わせで、乳腺炎を疑うような方は病院を受診してもらうなど、医療機関にもつないでいます。ケースの状況によっては、同市の助産院「おっぱい相談室るんるん」に紹介することも想定されているそうです。まさに「助産師が常駐する強み」を活かした専門性の高い支援が展開されていることに感動です。

◆すてっぷの「助産師」清家さんへのインタビュー

私たち助産師にとって興味深いことは、なんといっても「すてっぷ」には助産師としての職員が配属され、活動されていることだと思います！そこで、助産師の清家さんに取材させていただきました。

《突然の配属に驚きの清家さん！当初の思い...》

*すてっぷへの配属が決まった時の思いは？

突然で驚きました。現場を離れて長かったので務まるか不安でした。

*すてっぷの中で、助産師としてどのような活動をしたいと思われましたか？

妊娠から始まり、家族が成長していく過程に関わることになりましたが、現場で働いていた時と妊産婦の背景も変化し、支えとなる家族事態が脆弱なものになっていたり、母性が育たないまま親になり、子育てを強いられる状況になっていると感じます。妊婦さんと家族を含めて支援できるような活動が出来たらと思います。

《助産師だからこそできる地域の母子ケアとは？》

*清家さんが直接関わっている事業は？

- 【ドキドキ妊娠期】 ・母子手帳交付
・妊婦赤ちゃんふれあいサロン ・パパママスクール
- 【赤ちゃん誕生】 ・3か月児健診「親子のつどい」
・多胎児「親子のつどい」 ・おっぱい相談
- 【わくわく子育て期】
・産後ケア事業：コーディネート、面接手続き

(下線はセンター開設に伴い、新たに立ち上がった事業)

*すてっぷの事業で、助産師だからできること、力を入れて取り組みたいことは？

おっぱい相談や、支援の必要な妊産婦に対する出産へのぞむ心身の準備やお産の実際に関する支援など、助産師の経験を基に支援しています。

*助産師の経験が役立っていると感じることは？

ブランクはありましたが、勤めていた吉田病院が赤ちゃんにやさしい病院に力を入れていたので母乳育児についての経験が役に立っていると感じたことはあります。

→上のおっぱい相談の記事をご覧ください

*支援の中で心がけていること

妊娠届け(母子健康手帳交付時)で接するため、誕生の瞬間に立ち会って来た経験を生かして、妊娠が生命の誕生に繋がっていることを意識して頂き、妊娠を一人一人が受け入れられるように支援しています。

*助産師として関わる中での手応えは？

手ごたえと言うほどには、まだ行き着いておりませんが、母子健康手帳交付後の事業や健診でお会いすると気軽に声をかけて頂いたり、ちょっとした困り事や気付き等を伝えて頂いたりすると、子育て世代の窓口としてお役に立っているのかなと感じています。

《多職種との協働で実現できる濃厚な母子支援！》

*地域の母子支援にやりがいを感じる時・悩む時

やりがい：妊娠経過から育児まで関われることは、やりがいに繋がっています。悩む時：リスクの高い妊婦さんの環境を変えるのは簡単ではないこと。

*多職種との協働について

地区担当の保健師さんと協働するので、妊産婦さんを取りまく環境の把握が容易です。保健師さんの支援の切り口が多く勉強になります。栄養士さんとも日程を合わせて一緒に関わってもらえ、個別に具体的な栄養指導ができ、支援の場面で妊婦さんに負担をかけず、濃厚な支援が出来ていると思います。

*今後の抱負

妊娠や子育てを少しでも気楽に感じられるよう、子育て世代を地域で支えたいと思います。

●宇和島市の周産期状況

- * 出生数 年間 398人 (H30年度)
- * 分娩取り扱い医療機関
地域周産期センター1件
クリニック 3件
- * 助産院 保健指導開業 1件

- *取材にはメールでお答えいただきました。お忙しい中、本当にありがとうございました。
- *すてっぷのリーフレットは、ホームページより引用させていただきました。

●すてっぷは、現在改築工事中の宇和島市役所の中にあります。



●「ご注意ください！牛鬼にかまれないように！」の看板

◆「保健師」岡本さんへのインタビュー

《子育て支援における助産師の役割に期待！》

*宇和島市が支援センターに助産師を雇用した理由

妊娠出産育児がともしんどい方が増えています。妊婦が命をはぐくむ大切な時期であることや出産がゴールではなく、スタートであること、命の大切さ、尊さそして母となることの意味など妊産婦さんに伝えることの必要性を感じていました。命の誕生に直接関わる助産師の経験を生かし、支援の中で伝えていただきたいと思い、助産師の配置を希望しました。

また、これまでの宇和島市の母子保健事業の中で、妊娠期、産褥期の関わりが手薄だったため、助産師の職能を生かして支援を充実させたいと思いました。

*助産師が関わることの利点や必要性、保健師との違い

妊娠・出産に関する助言・支援などが具体的であり、妊産婦に安心感を感じていただける支援ができていることが利点と感じます。保健師と違い、妊娠・出産についてより具体的に話していただけるため、妊婦さんの不安が解消できていると感じます。助産師が必要と感じてい

る市町は多いと思いますが、人材がないというのが現状ではないでしょうか。宇和島市では、支援の中身が充実してきており、無くてはならない職種と思います。

《包括支援センター設置後の変化と今後の展望》

*すてっぷが開設されてからの宇和島市の変化

産婦健康診査など新規事業を開始し、産後早期の支援が充実しました。また、母子健康手帳交付、医療機関連携、産婦健診要支援者等を対象とした支援プラン会議を経て、支援の必要な妊産婦を選定し、継続支援を行うことにより、本当に必要な方に必要な支援ができる体制を作ることができたと思います。

(開始から1年間で、支援プラン作成 26例。)

*他に取り組みたい事業や、現在の事業の中で、改善したいと感じている事

低出生体重児を育てる親への支援の充実(個別支援及び交流の機会など)。産後ケア事業の対象は現在4か月未満としていますが「母子保健法の一部を改訂する法律」により、出産後1年を経過しない女子及び乳児と定められたため、今後対応できるよう検討が必要だと思います。

南予
研修

「母子のケアに活用できるアロマセラピー」

2019. 8. 25 講師：坂本早苗先生(アロマセラピーリフレインセラピストカレッジ宇和島校代表)

アロマセラピーはとても関心のある分野ですが、正直、カタカナが苦手で踏み込めませんでした。坂本先生はわかりやすく、理論立てて説明してくださるので、話が奥深く吸い込まれるようでした。特に関心のある妊娠中

や出産に役立つ精油などを知ることができて勉強になりました。ミストスプレー作りも楽しかったです。今回勉強したことを習得したら、今度は次の話が聞きたいです。

(長野産婦人科：坂本 都志江)

共催
研修

「NPO法人アレルギーを考える母の会」と共催

「アレルギーの基礎知識と保健指導及びスキンケアの実際」

2019. 12. 8 講師：福家辰樹先生(国立研究開発法人国立育成医療研究センター アレルギーセンター)

今回研修に参加したのは、アトピー性皮膚炎の予防には保湿がいいということは知っていましたが、それ以上の十分な知識を持っていなかったため根拠や方法を学んで患者さんへの指導に生かしたいという思いから参加しました。アトピーや食物アレルギー、アナフィラキシーショックのことなど詳しく講義をしてくださりました。中でも驚いたのが、アトピー性皮膚炎から食物アレルギーや喘息につながるということでした。そこまで関係しているとは知らなかったため、スキンケアの必要性を改めて感じました。

座学だけでなくエピペンのデモンストレーションや石鹸の泡立て方も実際に体験しました。エピペンは見たのも初めてであり、使用方法を事前知っておくことでいざという時に役に立つと感じました。また普段は泡タイプのボディソープを使用していましたが、実際に石鹸の泡立て方を体験し、こんなに簡単に泡を立てられるのかと驚き、自宅に帰ってから早速入浴時に実践しました。仕事として患者さんに生かせることができるのももちろん私生活でも生かせる内容であり、とても充実した研修でした。(県立中央病院：平井麻衣子)



●誌面の都合上、掲載できませんでしたが、このほかに、毎年開催されている「NCPRスキルアップセミナー」、お産グループ学習会「骨盤ケア」などが開催され、多くの方が参加がありました。

東予
イベント

東予さんばフェスタ2019 in 今治

2019.10.6 場所：今治市総合福祉センター「愛らんど今治」

●注目●今治で初開催！

東予地区 前山優子
(しまなみ助産院/いのうえ産婦人科)

今回は、第11回目の東予さんばフェスタを初めて今治市で開催しました。例年と違い10月の開催であることから、子どもたちの運動会や地域のお祭り、今治シティマラソンや瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチの最終日といった市内でも大きなイベントとも重なってしまいました。ほかにも助産師会の中四国研修とも重なりましたが、助産師を始め多数のボランティアを得て、例年通り、講座・体験・展示コーナーを設けることができました。



●年々グレードアップする施設展示コーナー

当日の参加者数は93名で、例年より少ない結果となりましたが、会場内が込み合わずゆったり過ごせていただけたと思います。

毎年大好評のメイン講座や体験、展示コーナーに加えて、今年は新たに、広いステージとピアノを活かして、オトノワさんのミニ演奏会を開催しました。子連れで演奏会に行く機会がないこともあり、参加者の方々にはとても好評でした。

さらに、手軽にできるハンドメイドおもちゃコーナーも設け、「短時間で手軽に作れる」おもちゃとしてガラガラとアンパンマンの起き上がりこぼし作りの2種類を行いました。ご家族で一緒におもちゃ作りを楽しまれ、子どもが出来上がったおもちゃで機嫌がよく過ごすことで、母親は落ち着いて講座や体験コーナーに参加することにつながりました。

最後になりましたが、今回今治での初開催にあたり、施設の確保・事前準備から終了



●手作り
おもちゃでご機嫌♪



●オトノワさんの演奏

後の諸作業まで、多くの皆様のご協力を賜りましたこと、心から感謝いたします。

2020年度も今治で開催の予定となっています。私たちの支援を届けられるように、よりたくさんの方々に参加して楽しんで頂けるように取り組みたいと思います。



南予
イベント

南予さんばフェスタ2019 in 宇和島

2019.10.13 場所：道の駅みなとオアシス宇和島「きさいや広場」

●今年もきさいや広場で開催！

南予地区長 松下千恵 (長野産婦人科)

きさいや広場での「南予さんばフェスタ」の開催も4年目になり、昨年より多い181名の来場者数となりました。今年は「さとう式リンパケア」や「サシェ・石鹸作り」の新しいブースを加えることができ、良い感想もいただきました。また看護学生(宇和島看護専門学校)の

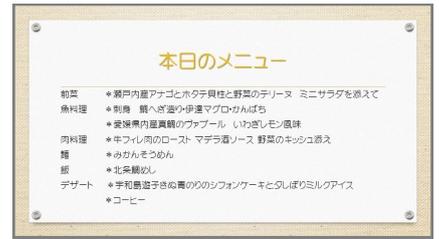
ボランティア参加もあり、賑やかに楽しい時間を過ごすことができました。助産師会会員以外の協力も増えて、少しずつイベントの輪が広がっているようで嬉しく思いました。来年も子育てに頑張っているママたちに楽しんでいただけるようなイベントになるよう頑張りたいと思います。



●誌面の都合上、掲載できませんでしたが、このほかにも他団体主催イベントへの協力として、毎年2回開催の「パパママほやほや子育てセミナー」、医師会主催の「良い子を産み育てる妊婦の日」、赤ちゃん本舗の「マタニティスクール」、2019年が最後となった大街道の「みんなの生活展」などがあり、多くの会員の皆様がボランティアとして活躍してくれました。

おまけ Web学会 懇親会もバーチャルで！

懇親会の余興で演奏予定だった、和太鼓雷神のパフォーマンスや担当者が試食を重ねたこだわりのコース料理をスライドショーで紹介しました。メニューの鯛めしとみかんそうめんは、俳句の賞品にも選んだおいしさです。いつかコロナが収束し、皆でこのメニューをいただける日がくるといいなと思います。（懇親会担当：吉田佳代子・眞田千恵子）



祝 まつやま助産院が 村松志保子助産師顕彰会 第24回 特別賞を受賞しました！



全国学会の岡本喜代子氏の講演（2ページ）で登場した村松志保子助産師顕彰会は、毎年優れた助産師活動を行った個人や団体を表彰しています。令和2年度は、長年にわたって地域母子保健への貢献に尽力された功績を称えられ、**愛媛助産師会立まつやま助産院**が特別賞を受賞しました。武智院長はじめ、助産院スタッフの皆さま、おめでとうございます。



● ウェルカム ひめじょコーナー ●

ひめじょへようこそ！ひめつう14号掲載以降に新規入会や他支部より転入された会員の皆さまを紹介します。

◆中予地区（14名） ◆東予地区（4名） ◆南予地区（1名）
ご入会ありがとうございました！

●新入会員の皆様 & アドレスが変わった会員の皆様へ ~ひめじょメール登録のお願い~

愛媛助産師会では、**会員専用のひめじょお知らせメール**を運営しています。研修情報を事前に配信しますので、登録しておけば研修の申し込みもラクラク！災害時の安否確認システムとしても重要なツールになりますので登録にご協力ください。

●登録方法 himejyo-oshirase@mamail.jp に 空メールを送信してください。

- *右のQRコードを携帯で読み取ると面倒なアドレス入力が不要です。
- *必ずいつもご覧になるアドレスを登録してください。

●携帯の迷惑メール防止機能による削除が多くなっています！

【@mamail.jp】が受信できるよう**再設定**のうえ登録をお願いします！

*設定を簡単に行うには、携帯からコチラにアクセス！→<http://www.mamail.jp/ds/>

●登録がうまくいかない場合は… 事務局 ehime@himejyo.jp にご連絡ください。



入会用のQRコードです。
これで簡単に登録してネ！
すでに登録済の人も、
自分の登録状況が
確認できますよ！



★ 新入会手続きのご案内

(社)日本助産師会への入会をご希望の方は、以下のいずれかの方法で愛媛助産師会を通じて手続きをなさってください。

- ①研修会の時などに書類と会費を持参する
- ②書類郵送/会費を振り込む(右の連絡先へ)
- ③愛媛助産師会理事に直接渡す

*入会金について：入会手続きを希望される方は、初年度のみ入会金1万円を含む30,000円が必要です。次年度からは年会費20,000円が自動引き落としになります。(学生の賛助会員から正会員に移行の方は、入会金は不要です)

(一社)愛媛助産師会 事務局 連絡先

- 住所：〒790-0804 愛媛県松山市中一万町2-1 愛媛県助産師会立まつやま助産院内
- TEL/FAX：089-945-6757
- Email：ehime@himejyo.jp
- 振込先：ゆうちょ銀行 16140-2281641 (口座名義) 日本助産婦会愛媛県支部

編集後記 ひめじょの皆さま、お待たせいたしました！今回、発行時期を遅らせて、全国学会の記事も合わせた拡大号という形になりました。実行委員の皆さまは、最後のお仕事、ひめつうの記事をありがとうございました。2020年、いよいよ全国総会・学会が愛媛で開催！という矢先に、愛媛県での現地開催が中止に…。2年前から実行委員で準備を重ね、開催まであと2カ月というところでの決定でした。そのような中でも、井伊会長はじめ崎山学会実行委員長のもと、最後までいい学会にしようと、実行委員メンバー・理事・協力者の皆さん…素敵なひめじょ仲間と一緒に頑張ることができたことを誇りに思います。私たち助産師は、どんな状況にも柔軟に前向きに対応し、ベストを尽くすことが求められます。今回の経験は、そのことを強く学ばせていただきました。(編集長 いまむら)

